

第67期 中間株主通信

2024年2月1日～2024年7月31日



豊田市博物館



株主の皆様におかれましては、日ごろより格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

代表取締役社長 小林 統

■上半期を振り返って

当中間連結会計期間(2024年2月1日～2024年7月31日)における我が国経済は、雇用・所得環境が改善するなか、各種政策の効果もあり、緩やかな回復が期待されるものの、世界的な金融引締めに伴う影響や、海外景気の下振れが我が国景気を下押しするリスクとなっていることもあり、依然として不透明さが残っています。

当ディスプレイ業界の事業環境につきましても、個人消費の持ち直しに足踏みがみられる一方で、企業の販促投資が持ち直していること等により、需要は回復してきております。しかしながら、物価上昇や人件費の増加等によるコスト上昇リスクについても、注視していく必要があります。

このような状況のもと当社グループは、中期経営計画(2025年1月期～2027年1月期)に基づき、成長軌道に乗せるための基盤整備と新たな領域への投資を行い、更なる企業価値の向上を目標に事業活動を展開してまいりました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は410億24百万円(前年同期比5.5%増)となり、営業利益は19億27百万円(前年同期比41.9%増)、経常利益は20億35百万円(前年同期比45.2%増)、親会社株主に帰属する中間純利益は14億84百万円(前年同期比60.2%増)となりました。

また、当中間連結会計期間の受注高は579億27百万円(前年同期比44.0%増)となりました。

■通期の見通し

足元の環境については、緩やかな景気回復が続き、空間づくりの需要は堅調に推移すると考えられます。インバウンドの急回復、および拡大も追い風になると認識しております。

ただし、下振れリスクとして、物価高の長期化による消費者マインドの悪化、深刻な人手不足による供給制約、海外経済の減速、国際情勢の緊迫化(ウクライナ、中東、米中対立等)などが懸念されます。

上述の経営環境を踏まえ、当社グループは、新たに中期経営計画(2025年1月期～2027年1月期)を策定し、堅調な経済環境下での着実な事業成長を実現するとともに、働く環境の改善やマーケティングの仕組みづくりなどの重要課題への対応をはじめ、より長期的に、持続的に成長していくための基盤整備に注力してまいります。さらに、「空間づくり」の可能性を拡げるため、新規事業など、新たな領域への挑戦をしてまいります。

当社グループは、経営上重視すべき指標を連結ROEおよび連結営業利益率としており、中期経営計画期間(2025年1月期～2027年1月期)の目標値としては連結ROE8.8%、連結営業利益率5.2%を掲げております。また、還元目標については配当性向50.0%以上を目標としております。

なお、2025年1月期通期の連結業績予想につきましては、概ね順調に推移しているため、前回の予想から変更はありません。

(百万円)

売上高	営業利益	連結営業利益率(%)	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	連結ROE(%)
2025年1月期 計画					
83,000	4,000	4.8	4,100	2,800	8.7
2026年1月期 計画					
85,000	4,200	4.9	4,300	2,900	8.6
2027年1月期 計画					
86,000	4,500	5.2	4,600	3,100	8.8

■配当金について

当期の中間配当金は、1株あたり15円とさせていただきます。また、期末配当金は、1株あたり15円を予定しており、年間配当金は、1株あたり30円となる見込みです。

株主の皆様におかれましては、今後とも、より一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2024年10月

商業その他施設事業

連結売上高 **232億39**百万円 (前年同期比 2.2%増)

セグメント利益 **9億76**百万円 (前年同期比 3.7%増)

商業その他施設事業においては、主にホテル、オフィス、博覧会、ショールーム等の新改装案件が増加し、売上高、セグメント利益ともに前年同期を上回りました。この結果、商業その他施設事業の売上高は232億39百万円(前年同期比2.2%増)、セグメント利益は9億76百万円(前年同期比3.7%増)となりました。



関西国際空港第1ターミナルビル
新国際線出国エリア

チェーンストア事業

連結売上高 **124億48**百万円 (前年同期比 13.2%増)

セグメント利益 **8億71**百万円 (前年同期比 86.3%増)

チェーンストア事業においては、主に飲食店分野やその他専門店分野の新改装案件が増加したこと等から、売上高、セグメント利益ともに前年同期を上回りました。この結果、チェーンストア事業の売上高は124億48百万円(前年同期比13.2%増)、セグメント利益は8億71百万円(前年同期比86.3%増)となりました。



LAKOLE トレッサ横浜

文化施設事業

連結売上高 **51億49**百万円 (前年同期比 4.0%増)

セグメント利益 **30**百万円 (前年同期は1億14百万円のセグメント損失)

文化施設事業においては、前年同期に比べ収益性の低い案件が減少傾向にあることから売上高、セグメント利益ともに前年同期を上回りました。この結果、文化施設事業の売上高は51億49百万円(前年同期比4.0%増)、セグメント利益は30百万円(前年同期は1億14百万円のセグメント損失)となりました。



豊田市博物館

その他

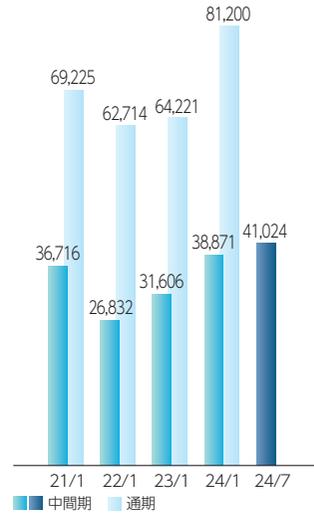
連結売上高 **1億86**百万円 (前年同期比 3.3%減)

セグメント利益 **46**百万円 (前年同期比 20.6%減)

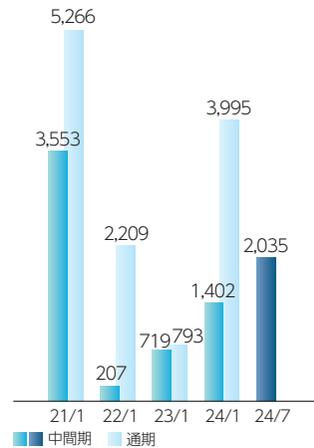
その他においては、ディスプレイ業以外の事務サービス等は、売上高、セグメント利益ともに前年同期をわずかに下回りました。この結果、その他の売上高は1億86百万円(前年同期比3.3%減)、セグメント利益は46百万円(前年同期比20.6%減)となりました。

連結財務ハイライト

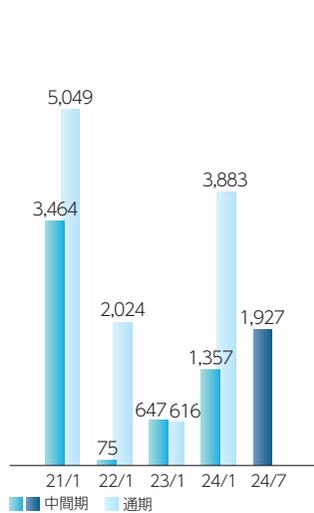
売上高 (単位:百万円)



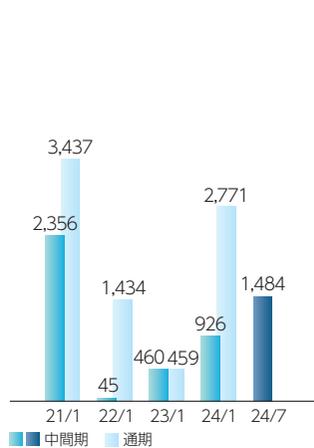
経常利益 (単位:百万円)



営業利益 (単位:百万円)



親会社株主に帰属する
中間(当期)純利益 (単位:百万円)



連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	前期末	当中間期末
	2024年1月31日現在	2024年7月31日現在
流動資産	42,065	40,508
固定資産	8,586	8,523
流動負債	18,058	15,619
固定負債	966	1,809
純資産	31,626	31,602
総資産	50,651	49,031

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前中間期	当中間期
	自 2023年2月 1日 至 2023年7月31日	自 2024年2月 1日 至 2024年7月31日
売上高	38,871	41,024
売上原価	32,348	33,605
売上総利益	6,522	7,418
営業利益	1,357	1,927
経常利益	1,402	2,035
親会社株主に帰属する中間純利益	926	1,484

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前中間期	当中間期
	自 2023年2月 1日 至 2023年7月31日	自 2024年2月 1日 至 2024年7月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	2,000	332
投資活動による キャッシュ・フロー	△173	738
財務活動による キャッシュ・フロー	△704	△730
現金及び現金同等物の 中間期末残高	16,883	17,036

詳細な財務情報は、当社ウェブサイトIR情報をご覧ください。

アドレスはこちら▼

<https://www.tanseisha.co.jp/ir/>

①【事業主】関西エアポート株式会社
【業務範囲】施設コンセプト企画、MD企画、デザイン・設計、制作・施工、映像制作、内装監理
②【事業主】株式会社アダストリア【業務範囲】デザイン・設計
③【事業主】豊田市【業務範囲】基本構想、基本計画、展示基本・実施設設計、展示施工

市民とともにつくり今後も進化を続ける「豊田市博物館」



市民とともに理想の博物館をつくる

2024年4月、豊田市博物館がオープンしました。愛知県豊田市の市域を中心とした自然・歴史・文化・産業など幅広い分野を扱う総合博物館として、また、市民が集い交流する場として明るく開放的な空間となっています。建物自体の設計は世界的建築家・坂茂氏（坂茂建築設計）で、すぐ横に隣接する豊田市美術館（設計・谷口吉生氏）と絶妙な対比と調和を見せるとともに、両館の周囲に広がる庭園には「むかしの家」や自然体験ゾーンなどが整備され、回遊性や持続性に配慮した「21世紀の建築としての博物館」を形作っています。

当社は8年前の構想業務にはじまり、計画、設計、施工業務まで全段階の公募（コンペ・入札）で選定され、結果的に完成まで一貫受注する大規模プロジェクトとなりました。

同博物館が目指したのは、市民参加型の「みんなであつくりつづける博物館」。そのため構想段階から、市民向けワークショップを開き



実際のコンセプトづくりに反映したり、シンポジウムを開催し地元の小中学生に理想の博物館を発表してもらったり、また市内のさまざまなイベントに出展して博物館のPRをするなど、新博物館建設に向けた

機運を高めていきました。その集大成として23年1月に実施した主催イベントでは、市民がつくる展示やさまざまな体験を行い、1800名以上の市民にご来場いただきとても盛り上がりました。

さらに、前身の豊田市郷土資料館時代から、市の文化や歴史などを自主的に研究しているボランティア「とよた歴史マイスター」と一緒に資料集めや展示づくりを行い、新博物館では、ともに活動する市民や団体による「とよはくパートナー」を組織するとともに、市民たちの活動や発表・交流の場として「みんなの研究室」や「えんにち空間」を設置しています。

博物館の意向と建築家の想いを丁寧に調整

実際の設計・施工段階では、博物館の意向と建築（坂茂建築設計）の想いを調整することも、当社の重要な役割でした。当社は、博物館の文化財を守っていくという視点から必要な与件整理を計画の段階で一緒に行い設計に臨みました。一方、坂茂建築設計には建築家としての理想の形があるなか、当社の持つこれまでの経験で培った展示に関するノウハウや提案を重ね、さらに文化庁の博物館に対する整備指針なども加味しながらコーディネートしていくのは非常に根気がいるものでした。例えば、収蔵庫の前に設置される「前室」の細かい考え方の整理や、キッズスペースの柵の形状に対する危険防止基準等をクリアするために、話し合いや試行錯誤を何度も繰り返しました。

また、椅子や机、展示棚などの什器は、実物大のモックアップを製作して、実際の使いやすさ等を徹底して何度も確認しました。さらに福祉団体の協力を得て、車いすの方でも見やすい高さや、視覚・聴覚などさまざまな障がいのある方に、どうしたら情報が伝わりやすいかの検討も重ねていきました。

新博物館では、豊田市郷土資料館にはなかった「自然」がテーマに加わり、資料収集や調査、標本づくりにも市民の協力を得ながら、展示内容を充実させていきました。こうして「市民とともにみんなであつくり」博物館が完成したのです。



グループの総合力で大規模プロジェクトが完成

開館後は、子ども連れでキッズスペースがにぎわったり、学校帰りの学生がふらっと立ち寄ったりするなど、市民の皆様が親しまれる場になったという評価をいただいています。

本プロジェクトは当社が手掛けた文化施設の中では、かなり大規模なものとなりました。そのため社内外ともに関係者の数が多く、全体の作業をコントロールするのはかなり大変な作業でした。工期が一部コロナ禍にかかったものの、リモート会議等も活用しつつ綿密なコミュニケーションを取ることで乗り切ることができました。また、博物館特有の収蔵庫の設計など、さまざまな面で丹青研究所も含めたグループ全体としてのノウハウを注ぎ込んだという意味で、丹青社グループの総合力が試されたプロジェクトでした。これからも、博物館に限らず市民や利用者が、構想段階から主体的に関わっていく施設がどんどん増えていくと思われます。本プロジェクトを通して得た、業務への取り組み方や考え方、コミュニケーション方法などを今後の事業に活かしていきたいと思えます。

プロジェクトに携わったメンバー



(写真左から)

制作	鈴木 翔悟
プランナー	谷川 功晃
デザイナー	加藤 剛
営業	真下 まさゆき 政之

一般社団法人日本障がい者サッカー連盟と賛同パートナーシップ契約を締結しました

当社と一般社団法人日本障がい者サッカー連盟(東京都文京区、会長:北澤豪、以下JIFF)は、2024年6月1日に賛同パートナーシップ契約を締結しました。当社はJIFFが連携協力協定を締結している東京都港区区内に本社を構え、2023年度より区内での障がい者サッカー活動を支援しています。

また、当社のグループ会社である株式会社丹青ヒューマネットと連携し、区内の小中学校向けに障がいや障がい者サッカーについて学ぶ教育授業等を届けています。今後は更に連携を深め、共生社会の実現に向けた取り組みを進めてまいります。



ワントゥーテン(1→10)と資本業務提携を締結し『空間DX』ソリューションを提供します

当社は株式会社ワントゥーテン(本社:京都府京都市、代表取締役社長:澤邊芳明、以下「ワントゥーテン」)の資金調達ラウンド(シリーズB)に合わせて出資を行うと同時に、業務提携契約を締結し、両社の連携を強化します。当社がこれまで培ってきた物理空間の表現力、技術力、体験設計のノウハウと、XR/AIの技術力をコアとしたワントゥーテンの情報空間づくり、体験設計のノウハウを高いレベルで融合し、新しい時代の空間づくりの課題を物理と情報の垣根を超えて総合的に解決していく『空間DX』ソリューションを提供することで、新たな空間の価値づくりを進めてまいります。



ウェブサイトのご案内

積極的に情報開示を行っております。また、最新の統合報告書は2024年8月に公開しておりますので、当社をよりご理解いただくためにも、ぜひご利用ください。



<https://www.tanseisha.co.jp>

会社概要 (2024年7月31日現在)

商号	株式会社丹青社
設立	1949年10月14日
資本金	40億2,675万657円
従業員数	1,113名(連結1,484名)

役員 (2024年7月31日現在)

取締役会長	高橋 貴志	社外取締役	板谷 敏正
代表取締役社長	小林 統	取締役 常勤監査等委員	戸高 久幸
取締役	森永 倫夫	社外取締役 監査等委員	吉井 清信
取締役	深谷 徹	社外取締役 監査等委員	槇原耕太郎
取締役	津久井哲雄	社外取締役 監査等委員	保坂 理枝

株式の状況 (2024年7月31日現在)

株式の総数	
発行可能株式総数	187,200,000株
発行済株式総数	48,424,071株
株主数	12,206名
大株主	

株主名	持株数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,720千株	11.9%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,449	5.1
丹青社取引先持株会	2,341	4.9
第一生命保険株式会社	1,907	4.0
丹青社従業員持株会	1,542	3.2
株式会社三井住友銀行	1,500	3.1
株式会社三菱UFJ銀行	1,482	3.1
J.P.MORGAN SECURITIES PLC FOR AND ON BEHALF OF ITS CLIENTS JPMS RE CLIENT ASSETS-SETT ACCT	1,464	3.0
日本生命保険相互会社	1,446	3.0
野村信託銀行株式会社(投信口)	1,271	2.6

※ 持株比率は、自己株式(318,172株)を除いて算出しております。

株主メモ

事業年度	2月1日から翌年1月31日まで
配当金受領株主確定日	期末配当1月31日/中間配当7月31日
定時株主総会	毎年4月
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	東京都府中市日鋼町1-1 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 Tel.0120-232-711(通話料無料)
同郵送先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場金融商品取引所	東京証券取引所 プライム市場
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.tanseisha.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。)

撮影:adhoc 志摩大輔、株式会社フォトクラフト社、PIPS、平井広行

ここを動かさず空間をつくりあげるために。

株式会社丹青社

〒108-8220 東京都港区港南一丁目2番70号

Tel. 03(6455)8100(代表)

Fax. 03(6455)8220(代表)

